

【生前授戒（お戒名お授かり）のおすすめ】

「生きてるうちに戒名をもらうなんて、縁起でもない」という声をよく聞きます。また逆に「死んだときが心配だから、あらかじめもらっておこう」と言われることも少なくありません。「戒名とは、死人の名前」という間違った考え方からそう言われるのでしよう。

古来より仏祖は十六の戒律（生き方の道しるべ）を伝えてきました。それを理解し、護っていくと誓った人に、弟子としての名前（ブッディスト・ネーム）を授けたのです。これが戒名です。したがって、授戒は死の準備ではなく、安心して「生きてゆくため」の準備です。真の仏教徒として「目覚め」ようと発願することなのです。

いずれ私たちは死を迎えます。仏教の葬儀は、仏弟子（授戒して、戒名を持っている人）をお送りする儀式だと言えるでしょう。ですから戒名を持っていない場合は、葬儀の際にお授けすることになります。しかし、本来の意味合いからすれば、生前に授かっておくのが、仏教徒としての理想の姿と言えるでしょう。

宛陵寺の檀信徒の皆様へ申し上げます。生きているうちに真の仏弟子となりましょう。死後に執着せず、今をより良く生きるために……。

宛陵寺では、生前授戒の儀式を春秋の彼岸の時期に行えるように準備をしています。その儀式は約二時間で、坐禅、授戒式、読経等を修行します。

▼生前授戒のよいところは、

○授戒することで仏教の十六戒律（生き方の道しるべ）を知ることができる。

○自分の戒名の意味を知ることができ仏教徒としての自覚が持てる。

○戒名を授かる喜びで今の自分をありのままに生きること気づく。

▼呉々も「死の準備」とは考えておりません。

▼四字戒名を授かるには、戒名料は必要ありません。儀式に対する御布施を、志し程度お上げ頂ければと存じます。

▼前もって予約が必要です。その他詳しくは、お気軽にお尋ね下さい。

（一）の四字戒名を生前に授かりましょう

（例）宛陵院 太木長寿居士

（二）は言えば飾りであり、滅後に故人の御霊を

荘厳するため遺族がさずけるもの。生前には不要